

勘助「はい、実は私の万木にある田んぼの石垣が、少し雨が降るとすぐにくずれて、大弱りしているんですよ。何とかありませんか。」

勘助さんは、いかにも困ったというふうな、与右衛門さんに話しました。与右衛門さんは、ちよつと考えながら

与右衛門「それは大変ですね。それなら、こうしてはどうですか。まず、石垣の下に松の杭を五、六本打ち込んでから、もう一度石垣を積んでみてください。きつとくずれないと思いますよ。」

勘助「はい、それなら簡単なことです。やってみます。ありがとうございます。ございました。」

さつそく、勘助さんが与右衛門さんの言う通りになると、石垣はしっかりして、秋の大雨や台風にもくずれず、びくともしませんでした。

勘助「よかった。与右衛門さんは何でもよく知っている人なんだな。」と、勘助さんは感心しました。

⑨ あるとき、こんなことがありました。

村のヨシという若いお母さんが小さい子供を抱いて、与右衛門さんの家へかけこんでいました。

ヨシ「与右衛門さん、子供が『おなか痛い』と、しんどがっています。どうしたら良くなりますか」

与右衛門さんは子どもの様子を見



て、
与右衛門

「何か悪いものでも、食べたのだからうか。」

与右衛門さんは家の奥へ入り、

与右衛門「これを煎じて飲ませなさい。明日の朝には、おなかの痛いのが治ると思いますよ。」

と、いつて草の干した物をヨシさんに渡しました。

ヨシ「与右衛門さん、これは何の葉っぱですか。」

与右衛門「これはね、ゲンノシヨウコという薬草で、葉を摘み取って干した物ですよ。普通の下痢ならたいいてい一晩寝たら治るでしょう。」

*ゲンノシヨウコ 原野などに自生する多年草。茎、葉は下痢止め、健胃に有効。

ヨシさんはお礼を言うとい急いで帰っていきました。

次の日、また、与右衛門さんの家へ来て、

ヨシ「与右衛門さん、あのゲンノシヨウコのお蔭で子どもはすっかり元気になりました。ありがとうございます。ございました。」



深々と頭を下げてお礼を言いました。

与右衛門「そうですか。それはよかったです。しばらくは食べ物に気を付けてあげてくださいよ。」

与右衛門さんの話に、ヨシさんはうれしそうに帰っていきました。

⑩ 与平「与右衛門さん、いつもお世話になってありがとうございます。今日は里芋が取れたので持ってきました。食べてください。」

里芋を抱えて入ってきた与平さんを見て、与右衛門さんは言いました。

与右衛門「おう、これはおいしいそうだな里芋ですな。こんなにもらっていいのですか。」

与平「どうぞ、どうぞ。与右衛門さんにはいろんなことを教えてもらってみんな大喜びですよ。また、お願いします。」

与右衛門さんは、このようにだれにでも分けへだてなく親切でした。

『与右衛門さんなら、きつと教えて下さる。』と、村びとは困りごとができるかと相談にきました。また、与右衛門さんの話はわかりやすかつ

たので村びとだけでなく、しだいに門人もふえ、四国の大洲や京都、近江の各地からも、学問を習いに来ました。その忙しい合間をぬって与右衛門さんは、自分の学問を進めていきました。

そんな与右衛門さんをいつも見ていた村の人たちは、与右衛門さんの家の庭に大きな藤の木があることから、いつの間にか

『藤樹さん』『藤樹先生』と親しみを込めて呼ぶようになりました。(おしまい)

お知らせ

☆『紙芝居』の販売

十八巻の『藤樹紙芝居』を制作しました。ご入り用でしたらお求めください。

☆『紙芝居』の出前

ご要望があれば、学校、保幼・こども園、自治会のサロン、福祉施設などへ紙芝居の出前をします。

●連絡先

藤樹書院・良知館内

電話 〇七四〇〇四一五六